

[様式1]

分解度試験結果報告書

1. 一般的事項

新規化学物質等の名称 (IUPAC 命名法による)			
別 名			
C A S 番 号			
構造式又は示性式 (いずれも不明の場合は、その製法の概要)			
分 子 量			
試験に供した新規 化学物質の純度 (%)			
試験に供した新規 化学物質のロット番号			
不 純 物 の 名 称 及 び 含 有 率			
蒸 気 圧			
対 水 溶 解 度			
1-オクタノール/水分配係数			
融 点			
沸 点			
常 温 に お け る 性 状			
安 定 性			
溶媒に対する溶解度等	溶媒	溶解度	溶媒中の安定性

[備 考] 物理化学的性状は、可能な限り記入すること。

- 「蒸気圧」の欄には、被験物質の蒸気圧を記入すること。
- 「安定性」の欄には、温度、光等に対する安定性を記入すること。
- 「溶媒に対する溶解度等」の欄には、被験物質の溶媒に対する溶解度及びその溶媒中での安定性を記入すること。

2. 試験方法

試 験 方 法	
暴 露 期 間 (日)	
汚 泥 の 種 類	
被 験 物 質 濃 度	
汚泥の懸濁物質濃度	
基 準 物 質	
p H 調 整	有 ・ 無

3. 試験結果

(1) BODチャート

*別添としても良い。

(2) BOD測定結果

測定日 試験容器	BOD (mg)				
		7日目	14日目	21日目	28日目
(水 + 被験物質) 系		*1	*1	*1	*1
(汚泥 + 被験物質) 系	No. 1				
	No. 2				
	No. 3	*2	*2	*2	*2
(汚泥 + 基準物質) 系					
汚泥ブランク系	No. 1				
	No. 2	*3	*3	*3	*3

*1: 301F相当の試験において、実施していない場合は、記載不要

*2: 301F相当の試験において、試験容器2個で実施した場合は、記載不要

*3: 301C相当の試験の場合は、記載不要

< 301F相当の試験において、微生物への阻害性がある被験物質に対して低濃度における分解性を確認する場合 >

試験容器	測定日	BOD (mg)			
		7日目	14日目	21日目	28日目
(汚泥+被験物質)系	No.1				
	No.2				
(汚泥+被験物質+基準物質)系					

< 301F相当の試験において、難水溶性物質に対して補助物質を使用する場合 >

試験容器	測定日	BOD (mg)			
		7日目	14日目	21日目	28日目
(汚泥+被験物質+補助物質)系 補助物質 () 補助物質濃度 ()	No.1				
	No.2				
(汚泥+基準物質+補助物質)系 補助物質 () 補助物質濃度 ()					
(汚泥+補助物質)系 補助物質 () 補助物質濃度 ()	No.1				
	No.2				

(3)測定結果 (28日後の値)

測定項目		(汚泥+被験物質)系			(水+被験物質)系	仕込み理論量
		No.1	No.2	No.3		
BOD *1	mg			*3	*4	
DOC *1	mg			*3	*4	
被験物質残留量 及び残留率 (分析機器名称)	mg			*3	*4	
	%①			*3	*4	
変化物生成量 及び生成率 *2 (分析機器名称)	mg	*2	*2	*2,*3	*2,*4	*2
	%②	*2	*2	*2,*3	*2,*4	*2
物質収支 (①+②)	%			*3	*4	

*1: (汚泥+被験物質)系は汚泥ブランク系の値を差し引いて表示する

*2: 変化物が生成した場合に記入する

*3: 301F相当の試験において、試験容器2個で実施した場合は、記載不要

*4: 301F相当の試験において、実施していない場合は、記載不要

< 301F相当の試験において、微生物への阻害性がある被験物質に対して低濃度における分解性を確認する場合 >

測定項目		(汚泥+被験物質)系		(汚泥+被験物質+基準物質)系	仕込み理論量
		No.1	No.2		
BOD *1	mg				
DOC *1	mg				
被験物質残留量 及び残留率 (分析機器名称)	mg				
	%①				
変化物生成量 及び生成率 *2 (分析機器名称)	mg	*2	*2	*2	*2
	%②	*2	*2	*2	
物質収支 (①+②)	%				

*1: (汚泥+被験物質)系及び(汚泥+被験物質+基準物質)系は、汚泥ブランク系の値を差し引いて表示する

*2: 変化物が生成した場合に記入する

< 301F相当の試験において、難水溶性物質に対して補助物質を使用する場合 >

測定項目		(汚泥+被験物質+補助物質)系		(汚泥+基準物質+補助物質)系	仕込み理論量
		No. 1	No. 2		
BOD *1	mg				
被験物質残留量 及び残留率 (分析機器名称)	mg				
	%①				
変化物生成量 及び生成率 *2 (分析機器名称)	mg	*2	*2	*2	*2
	%②	*2	*2	*2	
物質収支 (①+②)	%				

*1：(汚泥+被験物質+補助物質)系及び(汚泥+基準物質+補助物質)系は、(汚泥+補助物質)系の値を差し引いて表示する

*2：変化物が生成した場合に記入する

(4) 分解度

		(汚泥+被験物質)系			平均値
		No. 1	No. 2	No. 3	
BOD分解度	%			*1	
DOC分解度	%			*1	
被験物質分解度	%			*1	

*1：301F相当の試験において、試験容器2個で実施した場合は、記載不要

< 301F相当の試験において、微生物への阻害性がある被験物質に対して低濃度における分解性を確認する場合 >

		(汚泥+被験物質)系		平均値
		No. 1	No. 2	
BOD分解度	%			
DOC分解度	%			
被験物質分解度	%			

< 301F相当の試験において、難水溶性物質に対して補助物質を使用する場合 >

		(汚泥+被験物質+補助物質)系		平均値
		No. 1	No. 2	
BOD分解度	%			
被験物質分解度	%			

4. 回収率 (平均値)

(水+被験物質)系回収率	%	*1
(汚泥+被験物質)系回収率	%	

*1：301F相当の試験において、実施していない場合は、記載不要

< 301F相当の試験において、微生物への阻害性がある被験物質に対して低濃度における分解性を確認する場合 >

(汚泥+被験物質)系回収率	%	
---------------	---	--

< 301F相当の試験において、難水溶性物質に対して補助物質を使用する場合 >

(汚泥+被験物質+補助物質)系回収率	%	
--------------------	---	--

5. 考察

*可能な限り、本試験結果の考察（本被験物質の生分解性について）を記載してください。
 *特に変化物を生じた場合には物質収支等について記載してください。
 *301F相当の試験において、微生物への阻害性がある被験物質に対して低濃度における分解性を確認する場合又は難水溶性物質に対して補助物質を使用する場合は、その妥当性について記載してください。

6. その他

試験実施施設	名 称	
	所 在 地	電話 () FAX ()
試験責任者	職氏名	
	経験年数	
試 験 番 号		
試 験 期 間	年 月 日 から 年 月 日 まで	

[備 考]

1. 本様式への記載は、最終報告書より転記して作成すること。
2. 最終報告書と同じ試験番号を記入すること。
3. 本様式の作成責任者は、本様式の欄外に、所属及び氏名を記載すること。